

福島大学 経済学部経営学科 鈴木 康彦

分解原理について、今から3年前、本誌のVol. 21, No. 12に総合報告を掲載させていただいたことがあります。線形計画の分野では、本道はほとんど解決済みといった状態です。そこで、残された分野ということで、分解原理に取り組んでいるわけです。論文誌にも同テーマで投稿したことがあるのですが、採択までに至りませんでした。現在は、捲土重来を期しております。

ところで、OR学会に出席してみますと、線形計画についての発表は、ほとんどないことに気づきます。以前から感じていたことなのですが、いつまでも線形計画で

もあるまいということです。そこで、非線形計画の知識を広めるといことで、Avriel, M., *Nonlinear Programming: Analysis and Methods*, Prentice-Hall, Englewood Cliffs, N.J., 1976. を読んでおります。最近発行された非線形計画のテキスト・ブックとしては、他に、Martos, B., *Nonlinear Programming: Theory and Methods*, North-Holland, Amsterdam, 1975. と、Bazaraa, M. S., & C. M. Shetty, *Nonlinear Programming: Theory and Algorithms*, Wiley, New York, 1979. をあげることができます。私としては、Avrielの本は、他の2冊と比べて、基本的なことがいねいに書かれ、叙述に省略されたところが少ないということから、同書を選んだ次第です。

会合記録

() 内は出席者
 編集委員会 12月7日(金)(8)
 研究普及委員会 12月10日(月)(6)
 会長候補者選考委員会 12月17日(月)(10)
 IAOR委員会 12月20日(木)(6)
 庶務幹事会 1月7日(月)(6)
 編集委員会 1月11日(金)(9)

会長候補者選考委員会

1月14日(月)(8)
 研究普及委員会 1月18日(金)(8)
 ORサロン 1月19日(土)(10)
 理事会 2月4日(月)(15)
 編集委員会 2月8日(金)(10)

第5回理事会議題

1. 第4回理事会議事録の承認
2. 入退会の承認
3. 会費未納者の処理について

4. 研究部会の新設並びに継続申請について
5. 昭和54年度3/4半期収支計算書
6. 昭和55年度事業計画案
7. 昭和55年度予算案
8. 昭和55, 56年度役員, 評議員候補者について報告
9. 定期総会までの日程
10. 春季研究発表会の準備状況報告
11. 国際関係報告
12. その他

編集後記▶木々の芽もほころびはじめ、春はもうそこにといい気配が感じられるようになりました。▶現在ほど科学・技術において真の創造が期待されているときはないといわれているようです。先月からの近藤先生の特別寄稿は歴史的事実や経験をもって、まさに真の創造をうるための方法について論じておられ大変意義深いものと思います。▶線形計画法といえば単体法という常識をうちやぶって多項式オーダーの解法が見つかった? というニュースは、われわれのまわりにも出回っていたの

ですが、情報不足もあってなかなかその正体がわかりませんでした。お忙しいなか伊理先生にその概要とこれにまつわるトピックスをわかりやすく解説していただきました。これでなんとなくそのモヤモヤが晴れた気持ちです。今後いずれかの機会にこの新解法の詳しい解説や評価について紹介してはと考えています。▶今月は春季研究発表会が仙台で開催。発表申し込みも多く東北支部ではうれしい悲鳴とか。編集委員にとっては記事集めの好機。できるだけ多くの会場をのぞかなくては。(M)

オペレーションズ・リサーチ

昭和55年3月号 第25巻(新シリーズ第5巻) 3号 通巻231号
 代表者 小林 宏 治
 発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
 (電話 03-815-3351~2) ☎ 113
 編集人 高橋 磐 郎
 発売所 株式会社 日科技連出版社
 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 ☎ 151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 650円(郵送料含) 年間予約購読料 7200円(郵送料含)

本誌への広告お申し込みは日経弘報社(563-2241)、明報社(571-2548)へ